

「市民と行政協働のまちづくりとは」

帝塚山大学大学院法政策研究科 中川幾郎

1. 市民「自治」とは何か

Autonomy（自律）と Governervility（統治能力）

「住民自治」…地方自治法でも不明、曖昧な定義

住民自治は実体化する過程にある。実体を作るのは「市民」

協働は、住民とともに実践する自治体（都市、地域社会）改革である

2. 「参画と協働のまちづくり」をキチンと定義する

(1) 参加と参画は異なる

Participation と Encounter

(2) 協力と協働も異なる

Collaboration と Co-Production

(3) 本来の「まちづくり」とは社会的資本の形成、蓄積、活性化のこと  
社会資本の三層構造に注目

①社会的固定的資本（都市インフラなど）＝ハード

②社会的共通資本（技術、知識、倫理、ルール）＝ソフト（宇沢弘文）

③社会的関係資本（人材、組織、コミュニケーション）（R. パットナム）

3. 協働を空疎なアリバイにしないために（先行都市の協働原則から）

(1) 対等

(2) 相互理解

(3) 自主性尊重

(4) 自立化

(5) 目的共有

(6) 相互補完

(7) 情報公開・情報共有

(8) 共に変わる

(9) 期限

4. 5つの「協働」領域、4つの協働プロセス

※すべての部局に協働の実践が求められている

① 委託

② 補助

- ③ 後援
- ④ 共催
- ⑤ 第三の協働（新しい公）

政策形成過程、政策決定過程、政策実行過程、政策評価過程、政策修正過程  
 ※「政策協働」と「事業協働」とがある

#### 5. なぜ「地域分権」が言われるようになったのか

- 阪神淡路大震災と東日本大震災の教訓
- コミュニティ（地域共同体）への注目
- ボランティアの大量社会化
- アソシエーションとしてのNPOへの期待（新しい公共）
- 集権型システムの脆弱性、分権型現場の強化
- 市民・地域社会の再創造と強化
- 都市型社会、郡部双方の問題点から

#### 6. 市民社会改革の視点（住民から市民への転換）

※日本には「市民社会」は本当に無いのか。

- 日本型コミュニティの分解の道程（政府主導のコミュニティ行政の失敗）

##### (1) さまざまな市民の顔

- ① 寝民 ② 居住民 ③ 市民 どう違う？

##### (2) 分裂している市民をどう見る

- ① 消費者 ② 租税負担者 ③ 共同経営者

##### (3) 二つの市民・住民自治

- ① コミュニティ型自治（共和主義的）＝地域共同社会＝住民自治
- ② アソシエーション型自治（自由主義的）＝目的別結社社会＝市民自治

※ この二つがそろって活性化する

##### (4) 多くの中・大規模自治体が気づき始めた

福岡市、北九州市、神戸市、大阪市、京都市、堺市、奈良市、新潟市、長野市、高松市など

##### (5) 合併と対決した中・小規模自治体も気づき始めた

伊賀市、名張市、朝来市、佐用町、近江八幡市、草津市、東近江市、宇陀市など

#### 7. 地域社会改革の視点・「まちづくり」の問い直し

##### (1) 真のまちづくりとは…

- ① コミュニティレベルにおける社会資本形成の営みを意味する
- ② 「社会資本＝Social Capital」の三層構造  
 ヒューマン（社会関係資本）、ソフト（社会的共通資本）、ハード（インフラ）

## (2) まちづくりの段階論

- ① 安全・安心（災害対応、犯罪防止）
- ② 機能性の整備（弱者にとって住みやすいか）
- ③ 社会的関係の場として（コミュニケーションは活発か＝信頼と面識社会づくり）
- ④ 真善美の面から（学び、美しさ、ハイモラル）
- ⑤ ローカル・アイデンティティの確立

## 8. 行政組織・文化の問い直し

- お役所公務員から自治体政府職員への転換
- 中央集権思考（住民もこれに侵されている）から地方分権思考へ
- 統治型行政観念から市民統制型行政観念へ
- 機関委任事務型、法律・通達準拠主義から自治・自主立法主義へ
- 政策評価システムの形成と総合計画のシステムの見直し
- 地域担当職員制度、支所、現場での政策提案、経営競争導入
- 職員評価システムの改革
- 予算システムの改革

## 9. 行政職員への視点とメッセージ

### (1) プロシューマーの時代に

Producer（生産者、供給者）と Consumer（消費者）の重層化

※現代では、誰もが何らかの財・サービスの供給者であり消費者である

※貴方は、自分がうける民間サービスと同じ水準で市民にサービス提供しているか

### (2) 職員の三面性

- ①公務労働者（仕事は楽で、給与は高く、休暇は取りやすい方がよい…?）
- ②公益の守護者（社会的不公正や不平等と闘う、時には政治圧力とも対決する）
- ③市民・生活者（良き家庭人、良き地域人、良き社会人）

### (3) 地域担当職員の具体的な役割

- ①市民感覚を持った、行政との橋渡し役（コーディネーター）
- ②矛盾に強い、組織形成のお世話役（ファシリテーター）
- ③課題発掘、計画形成の提起役（トラブル・シューター）
- ④事業企画、人材発掘の示唆、提案者（プロデューサー）
- ⑤初動期、成長期、自立期、それぞれ違う関わり（一律にはいかないことに注意）